

### Can you speak English? 黒田さん英語弁論で全国へ

県下中学校英語弁論大会が9月13日、矢吹町で行われ、創作の部で本宮一中3年生の黒田絵理さんが2位に選ばれ、全国大会への切符を手にしました。

9月27日には、県大会結果を高松市長へ報告し、全国大会への意気込みを話してくれました。

高円宮杯全日本中学校英語弁論大会は、11月29日から30日にかけて、東京都で行われます。

黒田さんの活躍を祈りましょう。



▲市長へ県大会第2位と全国大会出場を報告した黒田さん(写真左から2番目)

### 腕っぷしに自信あり!! 長谷川さんアームレスリング県大会優勝



▲3回目の挑戦で見事優勝を果たした長谷川さん

9月8日、福島市で行われたアームレスリング福島県選手権大会で、長谷川淳彦さん(仁井田字五百川)がライトハンドー70kg級で優勝しました。

長谷川さんはアームレスリングを始めて3年目で、市内の闘腕川上塾で練習を重ねてきました。インタビューに対し「来年も県で優勝し、全国で川上塾、福島の代表の名に、恥ない戦いをしたい」と話してくれました。

### こんにちは市長です vol.15



本宮市長  
高松義行

#### 「復興の魂」

皆さん、こんにちは。

10月10日に熊本県水俣市を訪問し、水俣病からの復興を目指す市の現状を視察しました。  
この視察は、水俣病発生から半世紀以上が過ぎ、復興へ歩む水俣市の姿を学び、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故からの復興を目指す福島市の足がかりとするため、安達地方広域行政組合が主催いたしました。

当日は、水俣市で「水銀に関する水俣条約外交会議」という国際会議が開催されている中での視察でありましたが、御多忙の中、宮本勝彬水俣市長をはじめ関係者の皆様の御出席を賜り、大変貴重なお話を伺いさせていただきました。

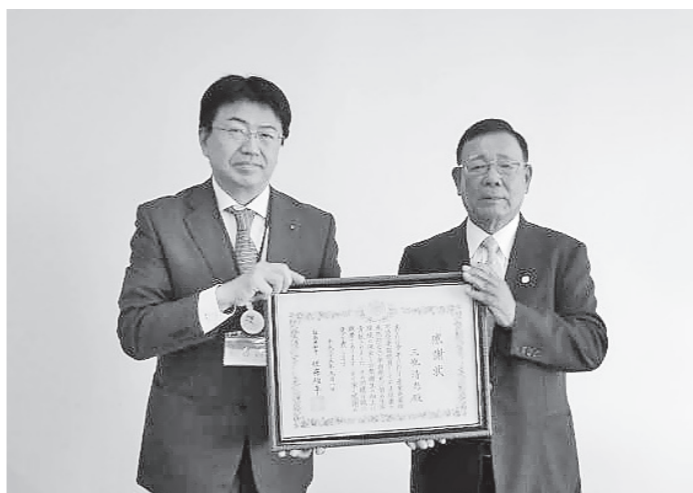
宮本市長からは「水俣は、水俣病により環境の破壊・健康の被害・差別や偏見、そして風評被害に長年苦しみ、今もその苦しみが残っている。しかし、この負の個性をプラスの資産にするため、平成4年に「環境モデル都市づくり」を宣言し、ごみを24種類に分類した高度分別や減量化に取り組みなど様々な環境保全行動に取り組んできた。福島も時間の経過とともに風評被害、偏見や差別が懸念される。私たちは冷静に正しい情報を共有することが求められる。水俣のような悲しい経験を繰り返してはならない。」と福島への思いを話していただきました。

また、ご自身も水俣病の患者であり、水俣病資料館の語り部である緒方正実さんに



▲高松市長へ大臣表彰を報告する井上さん

総務大臣表彰を授与  
行政相談員の井上さん  
長年本宮市の行政相談員を務めていただいている井上進さん(本宮字馬場)が、10月16日、総務大臣表彰を受賞し、高松市長に受賞を報告しました。  
井上さんは、平成10年から現在までの15年間、本市の行政サービスに関する相談、問い合わせに応じていただいています。  
そうした活動が、他の模範になるものと認められ、今回の表彰につながりました。



▲受賞者の三瓶清光さん(写真右)

知事感謝状を贈呈  
不法投棄監視員の三瓶さん  
福島県産業廃棄物不法投棄監視員として、長年不法投棄の未然防止にご尽力いただいている三瓶清光さん(松沢字糶屋)に対し、これまでの功績に感謝の意を表すため、9月30日に県北地方振興局牧野局長から知事感謝状が贈呈されました。  
三瓶さんは、平成14年12月に産業廃棄物不法投棄監視員となり、不法投棄防止活動の促進や環境衛生事業などに積極的な取り組みを続けています。

### 車いす卓球で全国2位

10月12日から13日の2日間にわたって全国障害者スポーツ大会が東京で行われました。13日行われた卓球部門には、本宮市の橋本弘子さんも出場し、見事銀メダルに輝きました。橋本さんは「復興支援への恩返しの気持ちで頑張った。これからも障がい者のスポーツ環境をよくするため頑張りたい。」と話してくれました。



▲元気なフクシマをアピールできたと話す橋本さん

### 相模女子大ソフト部が合宿

9月9日から11日の3日間、相模女子大学のソフトボール部の学生9人が本宮市を訪れ、合宿を行いました。  
部員の皆さんは、白沢野球場で、ノックとティーバッティングを中心に練習を行いました。2日目の夜には、本宮市役所野球部との練習試合を行い、合宿の成果を発揮していました。



▲合宿を終え、成長した表情の相模女子大ソフト部の皆さん

面談の時間をいただき、水俣病発生の背景や差別に苦しんできたこと、あきらめずに闘ってきたことなどをお話しいただきました。直接お話をさせていただき、水俣病患者の苦悩・偏見との闘いをお伺いし、福島市の現実と重なる部分やまだまだ続いている水俣の現実が目頭が熱くなりました。  
緒方さんから、水俣からのメッセージと水俣湾埋め立て地にある水俣エコパーク内の実生(みしょう)の森の木の枝で彫った「こけし」をいただきましたのでご紹介させていただきます。  
現実と正面から向かい合う事の大切さを、改めて強く感じました。一日も早くこの「こけし」に顔を描き、復興の魂としたいと思います。  
米の収穫作業も終わり、米の全量全袋検査もピークを迎えております。今年も本宮の米の安全安心を発信してまいります。体調これから寒さも増してまいります。体調管理に充分ご留意のうえ、お過ごしください。  
10月18日執筆

水俣からのメッセージ  
苦しいでき事や、悲しいでき事の中には幸せにつながるでき事がたくさん含まれている。このことに気づくか気づかないかでその人生は大きく変わっていく。気づくにはひとつだけ条件がある。それはでき事と正面から向かい合う事である。  
水俣病資料館・語り部 緒方 正実



水俣の祈り

本宮市長 高松義行 様  
水俣の被害に遭い、苦しみにながら失われ、人間、魚、鳥、すべての魂が宿っていると思われ、水俣湾埋め立て地にある、実生(みしょう)の森の木の枝で彫った「こけし」です。全ての失われた生命に祈りを捧げながら、「命の大切さ」と、二度と水俣病のような悲劇が繰り返されないよう、願いを込めて彫り続けています。白木のままで、目や鼻や口を彫りつけていないのは、未完成の意味です。受け取られたみなさまの思いの中で完成させていただきます。  
水俣市立水俣病資料館・語り部 緒方 正実